

国家総合職

厚生労働省

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年5月23日（火）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：13：20～13：40

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：面接官との距離は1～2メートルくらいと一般的だった。

私：失礼いたします。

面接官A：荷物をそちら（入ってすぐのところに机があった）に置いて、どうぞおかけください。

私：はい。分かりました。

面接官A：受験番号と名前をお願いします。

私：はい。受験番号〇〇、〇〇〇〇と申します。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。よろしく願いいたします。

面接官A：ありがとうございます。今日は緊張していますか。

私：はい、かなり緊張しております。

面接官A：緊張せずリラックスして面接に挑んでいただければと思います。

私：ありがとうございます。

面接官A：まず専攻分野について聞かせていただきたいと思うのですが、民法を学ばれたということで具体的にはなにを学ばれていましたか。

私：講義では総論から家族法まで一通り学びました。その中でも不法行為に興味を持ち、大学2年の時にはゼミに参加しました。

面接官A：なぜ不法行為に興味を持ったのですか。

私：不法行為は民法709条以下に規定がありますが、条文数が少なく、詳細な規定が書かれているわけでもないものです。しかしながら不法行為に関する訴訟が日本では沢山あり、実務において不法行為の規定がどのように解

積され、運用されているか興味を持ったためです。

面接官A：なるほど。その不法行為についてのゼミではどういったことを行われていたのですか。

私：ゼミでは先生から出された事例に対して報告を行うという形式となりました。私は名誉毀損の事例を担当しました。

面接官A：現在日本でも SNS 上での誹謗中傷などが問題となっていますが、こういった名誉毀損はどう減らしていくべきだと思いますか。

私：誹謗中傷や名誉毀損に対して最初私は規制を強化することで減らしていくことを考えましたが、ゼミで学ぶ中で憲法の表現の自由との関係で規制を強化することは難しいと感じました。現在日本では誹謗中傷や名誉毀損があったとしても、SNS 上で、匿名で行われるため相手が分からず泣き寝入りすることが多くありますが、そういった泣き寝入りすることがないように事後の救済である損害賠償の制度などを強化していくことが必要だと思います。

面接官A：ありがとうございます。続いて学業職務について質問させていただきます。大学3年の時には地方自治を学ぶゼミでマイナンバー制度について学ばれたと書かれていますが、なぜマイナンバー制度を取り上げたのですか。

私：教授によってグループとテーマが振り分けられ、私はマイナンバー制度についての発表を行うグループに振り分けられたためです。

面接官A：なるほど。教授が決められたということですね。グループの中で書記をやられていたと書かれているのですが具体的にはどのようなことを行いましたか。

私：面接カードにも書かせていただいたのですが、議論が円滑に進むようにメモを取るだけでなく、争点や決定事項をわかりやすくすることや、To Do リストのようなものを作成し、次回の話し合いまでにやるべきことを可視化できるようにしました。

面接官A：それに対して周りのメンバーからの評価はありましたか。

私：具体的にどうだったかということは聞けませんでした。議論が行き詰まり皆で議事録に立ち返って争点を整理する際に、皆で話し合わなければいけない事項をスムーズに共有できたので、議論を円滑に進めるために役に立ったのではないかと思います。

面接官A：私からの質問は以上となります。

面接官B：続いて私から社会生活や学校生活について質問させていただきます

国土交通省

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年7月21日（金）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：20分

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：さいたま新都心合同庁舎。部屋は大きく、面接官との距離は5m位離れていた。

私：失礼いたします。

面接官：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官：着席してください。

面接官：志望動機を教えてください。

私：はい、「この国のどの地域でも豊かに暮らせる」そんな社会の土台作りをしたいと思い、国家公務員を志しました。

面接官：大学では何を学んでいるの？

私：はい、大学では地域づくりを、ゼミでは舗装工学を学んでおります。

面接官：地域づくりと舗装か～志望官庁の国土交通省にピッタリだね。

私：私もそう考えております。

面接官：グループワークではどのような立ち位置だった？

私：はい、私はグループワークではまとめ役や指示役を担うことが多かったです。

面接官：そこでトラブルや大変だったこととかはなかった？その乗り越え方は？

私：グループワークで大変だったことはありました。グループワークとなるとどうしてもサボってしまう人がいます。グループワークでは役割を分担していたので、一人がサボってしまうと皆に迷惑が掛かってしまいます。このサボってしまう人をどう作業に向かわせるかが大変でした。幸い、その人は初動がとても重い人であり、最初の作業と一緒にやると継続して作業をしてくれる人でした。ここから最初の作業は共同で行うことで解決しました。

面接官：そうですか。ありがとうございます。

面接官：人との距離を縮めることが得意と面接カードに書いてあるけど、その時に意識していることはある？

私：はい、あります。まずは自分から警戒を解くこと。できるだけ自然体でいることです。次に自分の事を話すこと、そしてよく笑う事です。目的は相手の警戒を解くことにあります。

面接官：はい、ありがとうございます。

面接官：面接カードの興味を持ったことにラーケーションって書いてあるけど、公務員としてこの活動はどうおもう？

私：はい。とても魅力的な活動だと考えています。なぜならラーケーションによって観光活動につながることや、普段子供たちと過ごせないご両親にとって、ラーケーションは子供たちと過ごせる貴重な機会になるからです。

面接官：はい。ありがとうございます。これで以上になります。ありがとうございました。

(2)面接を終えての印象

思っていたよりはしっかりとした受け答えができたのではないかなと考えています。質問される内容は面接カードに沿った内容や、事前に対策をしていた内容ばかりでした。また面接官の雰囲気も柔らかく、緊張をしなかったことも大きいのかとも考えています。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

ほぼ同じでした。自分がなぜ国家公務員を志望するのか。中でもどこを志望するのか。しっかりしたコミュニケーションが取れるか。これらができていれば問題ないと考えています。

(4)他受験生の印象

緊張している人がちらほらいました。人事院面接までいくつか面接があったので多くの人は面接に慣れてきたのか、官庁訪問よりも待合室の空気は柔らかかったように思います。